

タッチ・ザ・ワールド事業の評価・検証について

1 タッチ・ザ・ワールド事業の現状及び利用実績について

(1) タッチ・ザ・ワールド事業について

タッチ・ザ・ワールド事業は、子どもたちや区民が楽しみながら英語を学び、多様な文化に触れることができる多文化体験事業として、平成30年10月より教育センター2階において次の内容により事業を開始した。

① 一般利用	常設の機材を用いた展示、チャットタイム等英語を用いたALTとの多文化体験を行う。
② イベント	小学校の対象学年向けに、英語でのコミュニケーションを基本としたアクティビティ、海外生活の疑似体験等を行う。
③ 小学4年生の移動教室	各区立小学校4年生が、教育センターへバスで移動し、プラネタリウム観覧と合わせて、多文化体験コーナーにて英語体験を行う。 読み聞かせ、英語かるた等の英語を用いた各種アクティビティを行う。

2 タッチ・ザ・ワールド事業の利用実績

(1) 利用数

①一般利用・イベント

平成30年度 (開場日毎の平均)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平日	15	13	8	16	16	16	14
土日祝・長期休業	37	40	27	42	45	56	41
イベント	84	89	107	65	207	172	121

令和元年度 (開場日毎の平均)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平日	23	17	24	36	/	43	38	35	30	30	25	20	29
土日祝・長期休業	52	51	109	88	80	103	97	82	66	75	73	31	76
イベント	227	175	167	64	98	180	162	118	76	102	158	/	139

令和2年度 (開場日毎の平均)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	平均
平日	/	/	15	21	/	29	27	20	22	22	22
土日祝・長期休業	8	/	40	53	65	74	52	61	56	52	51
イベント	/	/	137	116	67	140	148	89	75	61	104

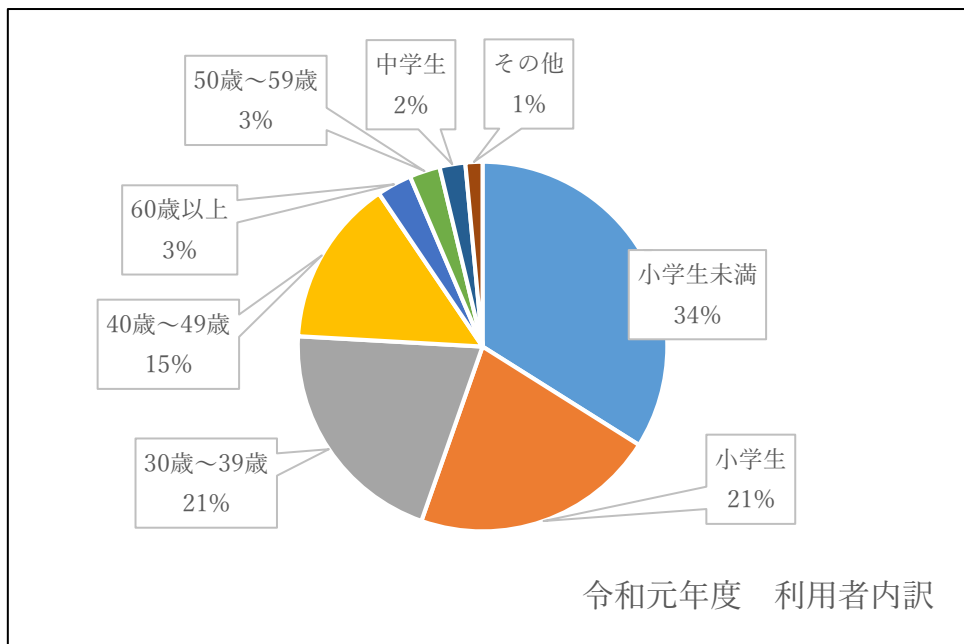
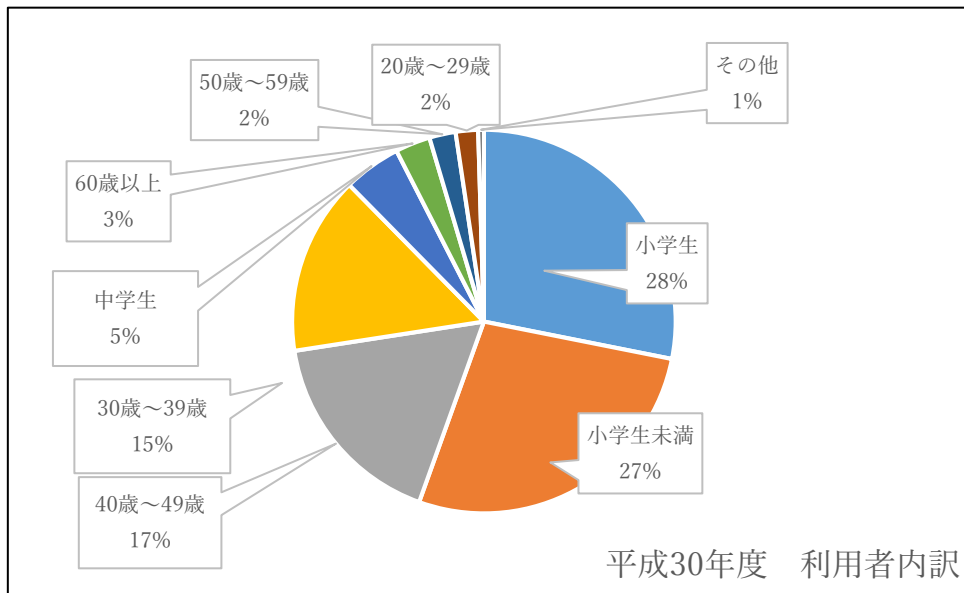
※8月の平日は長期休業に含まれる。令和2年度は4月8日～5月31日は休館

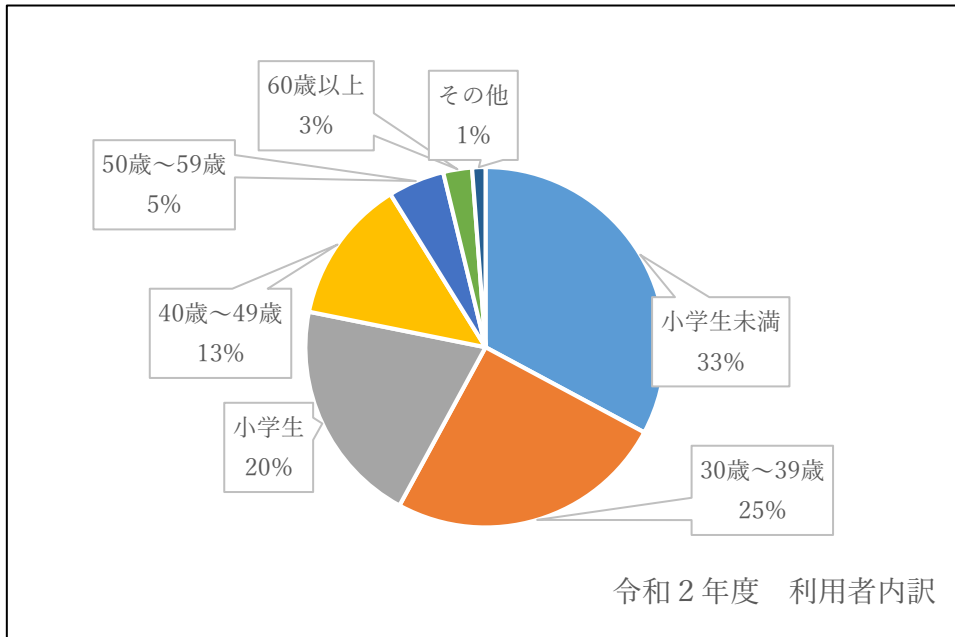
②移動教室

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	0	0	0	0	0	287	2070	2009	0	776	1097	0	6239
令和元年度	0	471	0	0	0	858	1633	1507	33	1356	409		6267
令和2年度						432	1593	995	498	651			4169

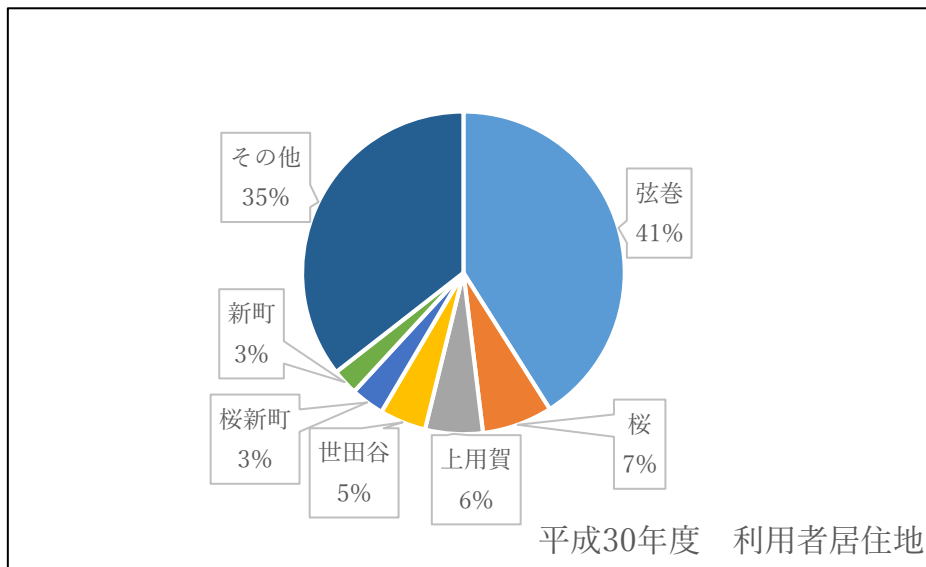
※令和2年度は学校への出張型の実績（4月～1月）

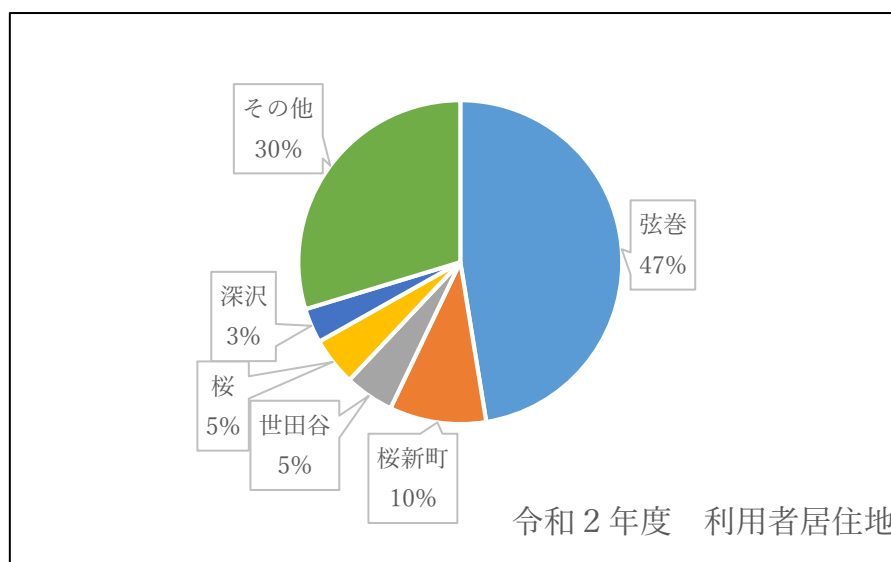
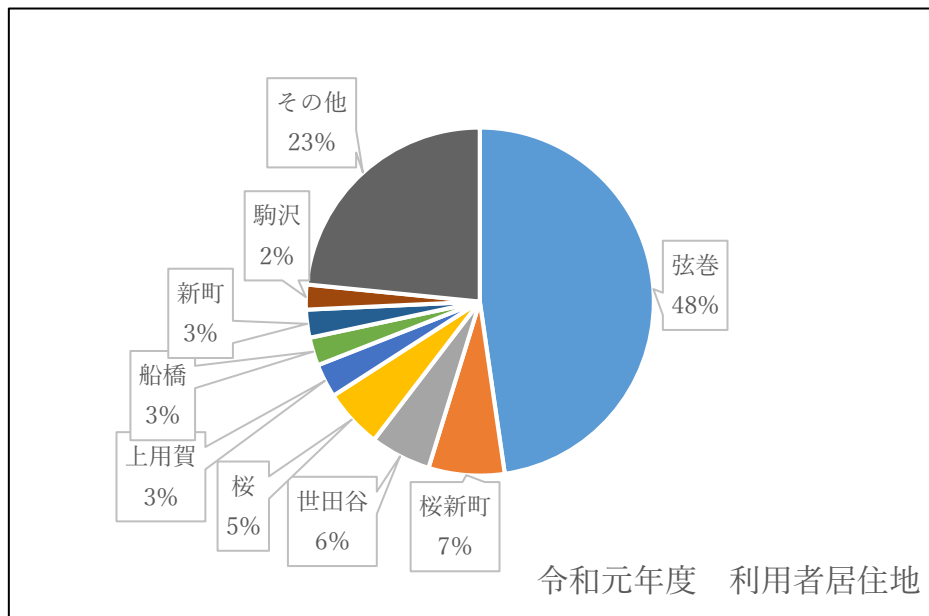
(2) 利用者内訳（一般利用・イベント 小学生移動教室は含まず）





(3) 利用者居住地 (一般利用・イベント)





(4) 利用者の感想

①一般利用の利用者の感想

(平成31年4月～令和元年11月まで 122件の中より抜粋)

- ・子どもの興味をひいてくれるおもちゃや本が充実している。スタッフの方が親切。
- ・実際に楽しく英語を聞くことができた。
- ・英語に気軽に触れられる環境でコンテンツも質が高く、偶然おとずれたのですが、とても楽しかったです。
- ・設備の広さのわりにはスタッフが少ない。子ども達を見ていても、友達同士、日本語でただ遊んでいるだけ。
- ・ALTと話す時間が少なかった。1対1でなく1対複数で良いので、もっと接する時間を長くして欲しい。

②移動教室の感想（令和元年度の教員からの感想から抜粋）

- ・子どもたちが積極的にプログラムに取り組んでいた。授業であまりしゃべらない子どもが、ALTの巧みな話しかけで活発に参加する姿が見られた。
- ・子どもたちの興味をひくようなプログラムが多く、それぞれがよく考えられていると思う。
- ・プロジェクションマッピングはジオラマを活用することで、世田谷の地形から自分の学校が浮かび上がる工夫がなされている。これには子供たちが興味をもって見ていた。一方で子供たちが英語に触れ合う時間が少なかった。
- ・1つのプログラムに参加する児童が8～10人なので、英語に触れる機会が少なく、見ているだけで終わる児童がいた。
- ・読み聞かせは学校でもできること。もっと子どもたちが能動的に活動できるプログラムが必要である。

3 事業の総括

(1) 一般利用

① 分析

一般利用の利用者数が十分でなく、広く利用されなかった原因は次のことが考えられる。

- ・英語を体験することを望んでいた利用者にとってALTの人数、プログラム等が十分ではなかった。
- ・リピーターとして何度も訪問してもらうためには、設備・事業内容の定期的な更新が効果的であるが、プログラム等が十分ではなく大幅な更新を行うことができなかった。
- ・事業の周知が学校を通じた児童への周知が中心であり、広く区民を対象とした周知が十分でなかった。
- ・区民が気軽に訪れるためには交通の便も重要な要素の1つであるが、駅からの距離も近いとは言えず、駐車場も整備されていなかった。

② 評価

一般利用の利用者数は、事業開始当初に比較すると令和元年度は増加したが、施設規模や子どもたちや区民が楽しみながら英語を学ぶという事業目的からは、十分な利用があったとは言えない。また、利用者のほとんどが近隣在住者で、未就学児とその保護者が利用者の大半を占めており、英語体験や多文化体験としての利用がなされていない場面があったと考える。

一般利用について、ホームページに掲載し、学校を通じて周知したが十分ではなく、また、リピーターを確保する内容が提供できなかった。

(2) イベント

① 分析

イベントについては、毎回のテーマを変えて実施したことによりリピートでの利用などにつながったものと考ええる。またイベントに関しては、学校を通じて開催のチラシ等を配付したり、ホームページに載せたりすることが効果的であったと考えられる。

② 評価

イベントについては、一定数の利用が得られた。

(3) 移動教室

① 分析

多文化体験を目的としたプログラムであるため、かるた・けん玉体験など日本語で子どもたちが会話をしがちになり、英語体験という目的が十分に達成できなかった。ALT一人に対する児童の人数が10人を超えることがあり、英語を会話するという点では十分な時間を確保できなかった。

② 評価

子どもたちはプログラムを通して、外国人指導員と一緒に体験的に学ぶ時間を過ごすことができたと考ええる。プログラム内容については、英語を話す体験に十分な時間を確保できず、外国人指導員の配置を効果的に活用できなかった。

4 今後の方向性

小学4年生の移動教室 (英語体験事業)	① 令和3年度については、感染症の影響を考慮し、令和2年度と同様に各学校を外国人指導員が訪問し、体育館等で英語体験事業を行う(6人程度のグループごとに外国人指導員を配置するなど子どもたちがより多く英語を話せるようプログラム内容の見直しを行う。) ② 令和4年度以降については、体育館等を使用することの学校活動への影響などを考慮しつつ、体育館等における継続実施や教育総合センターの研修室等の活用も視野に入れ、実施場所の検討を行う。
英語体験事業	令和3年度以降は実施しない。
英語体験イベント	令和3年度は実施しない。(令和4年度以降については、場所等を含めてあり方を検討する)